

V

海外での学び



IV 国際化推進のための単位認定制度

V 海外での学び

VI 就職・キャリア支援

VII 学生生活の手助け

期間や目的、国や地域で選べる 多彩な留学プログラム

短期留学

- 海外セミナー (学部・短期大学生対象) 204
- UK English Programme (学部・短期大学生対象) 205
- USA English Program (学部・短期大学生対象) 205
- ブルゴーニュ大学フランス語研修 (学部・短期大学生対象) 206
- ノヴォシビルスク国立大学ロシア語研修 (学部・短期大学生対象) 206
- 夏期英語研修 (短期大学生対象) 207
- 海外での語学研修に伴う単位認定 (学部生対象) 207
- 海外日本語教壇実習プログラム (外国語学部生対象) 208

長期留学

- 交換留学プログラム [派遣留学 A] (学部・短期大学生対象) 209
- セメスター・アブロード・プログラム [派遣留学 B: 英語圏] (外国語学部生対象) 209
- ブリッジ・プログラム [派遣留学 C: 英語圏] (外国語学部生対象) 210
- 認定留学 (学部・短期大学生対象) 210
- 派遣留学・認定留学に伴う単位認定 211
- SAF (スタディ・アブロード・ファウンデーション) 留学/休学留学 (学部・短期大学生対象) 214

海外インターンシップ・海外フィールドワーク

- 海外インターンシップ (学部・短期大学生対象) 215
- 海外フィールドワーク (学部生対象) 217
- エアラインスタディプログラム (学部・短期大学生対象) 218

リーダーシップ・チャレンジ

- リーダーシップ・チャレンジ (学部・短期大学生対象) 219
 - APSSA 学生カンファレンス
 - リーダーシップ・チャレンジ in 台湾
 - リーダーシップ・チャレンジ in サイパン

留学サポート

- 留学サポート 220
 - 国際部 (4号館 2階)
 - 留学情報室 (4号館 2階)
 - 国際部 Student Ambassador (S.A.)
 - SAF (スタディ・アブロード・ファウンデーション) 日本事務局 関西オフィス
 - 留学月間報告書閲覧システム
 - 留学フェア
 - 各種プログラムの担当部署
- 海外渡航をする場合の留意事項 222
- 留学生との学内交流プログラム 224



短期留学

各プログラムの詳細および説明会の日程については本学ホームページで確認してください。

海外セミナー（短期留学）

（学部・短期大学生対象）

夏期・春期の長期休暇を利用して、海外の協定大学で3～5週間の語学研修を行います。専攻語だけでなく、第2外国語などで学ぶ言語圏のセミナーにも参加することができます。

POINT

- ★休暇中に海外の協定大学で3～5週間の語学研修
- ★研修プログラムの内容はフィールドトリップもあって盛りだくさん！
- ★研修中はホームステイや学生寮などで生活体験
- ★日本出発から現地の初期導入期（約1週間）は本学の教員が引率
- ★長期留学の準備段階としても最適
- ★研修中の成果は、卒業に必要な単位として4単位を認定

< プログラム（予定） >

セミナー名	研修先大学	研修期間	宿泊場所
中国 （隔年実施）	北京第二外国語学院	8月中旬～9月上旬	学生寮
マレーシア	国立マレーシア科学大学	8月上旬～9月上旬	ホテル、ホームステイ
イギリス	キール大学	2月上旬～3月上旬	ホームステイ
カナダ	ダグラスカレッジ	2月上旬～3月上旬	ホームステイ
スペイン	サラマンカ大学	2月下旬～3月下旬	ホームステイ
フランス	アンジェ・カトリック大学	2月上旬～3月上旬	ホームステイ
ドイツ	マンハイム大学	2月上旬～3月上旬	ホームステイ
ポルトガル	コインブラ大学	2月上旬～3月上旬	ホームステイ
イタリア	ペルージャ外国人大学	2月下旬～3月下旬	レジデンス
台湾 （隔年実施）	国立政治大学	3月上旬～3月下旬	留学生寮

< 単位認定 >

【学部生】

- 自由選択「短期留学」として4単位を認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（42ページ）を参照してください。

【短期大学生】

- 専門コア「課題実践（海外研修・2単位）」および「重点履修科目（2単位）」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（177ページ）を参照してください。

UK English Programme (短期留学) (学部・短期大学生対象)

イギリスの4都市のいずれかで夏期・春期の長期休暇を利用して、3週間の英語研修を行います。

POINT

- ★イギリス4都市のいずれかで、3週間の英語研修
- ★研修中はホームステイなどで生活体験
- ★研修中の成果は、本学の卒業に必要な単位として認定
- ★出発から帰国まで個人留学
- ★毎月曜日に入学可能なので、8月または2月の上旬～下旬の範囲で出発日が選択可能

< 留学期間 (予定) >

夏期：8月～9月〔3週間〕 春期：2月～3月〔3週間〕

< 単位認定 >

【学部生】

- 自由選択「短期留学」として2単位を認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(42ページ)を参照してください。

【短期大学生】

- 専門コア「課題実践(海外研修・2単位)」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(177ページ)を参照してください。

USA English Program (短期留学) (学部・短期大学生対象)

アメリカの4～5都市のいずれかで夏期・春期の長期休暇を利用して、3週間の英語研修を行います。

POINT

- ★アメリカ4～5都市のいずれかで、3週間の英語研修
- ★研修中はホームステイなどで生活体験
- ★研修中の成果は、本学の卒業に必要な単位として認定
- ★出発から帰国まで個人留学
- ★毎月曜日に入学可能なので、8月または2月の上旬～下旬の範囲で出発日が選択可能

< 留学期間 (予定) >

夏期：8月～9月〔3週間〕 春期：2月～3月〔3週間〕

< 単位認定 >

【学部生】

- 自由選択「短期留学」として2単位を認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(42ページ)を参照してください。

【短期大学生】

- 専門コア「課題実践(海外研修・2単位)」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(177ページ)を参照してください。

ブルゴーニュ大学フランス語研修 (短期留学) (学部・短期大学生対象)

フランスのブルゴーニュ大学で夏期休暇を利用して、4週間のフランス語研修を行います。フランス語を第2外国語などで学んでいる人も参加できます。

POINT

- ★フランス・ブルゴーニュで、4週間のフランス語研修
- ★研修中は学生寮で生活体験
- ★研修中の成果は、本学の卒業に必要な単位として認定

< 研修期間 (予定) >

8月～9月〔4週間〕

< 単位認定 >

【学部生】

- 自由選択「短期留学」として4単位を認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(42ページ)を参照してください。

【短期大学生】

- 専門コア「課題実践 (海外研修・2単位)」および「重点履修科目 (2単位)」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(177ページ)を参照してください。

ノヴォシビルスク国立大学ロシア語研修 (短期留学) (学部・短期大学生対象)

ロシアのノヴォシビルスク国立大学で夏期休暇を利用して、3週間のロシア語研修を行います。ロシア語を第2外国語などで学んでいる人も参加できます。

※本プログラムは2022年度のみの実施となります。

POINT

- ★ロシア・ノヴォシビルスクで、3週間のロシア語研修
- ★研修中は学生寮で生活体験
- ★研修中の成果は、本学の卒業に必要な単位として認定

< 研修期間 (予定) >

8月～9月〔3週間〕

< 単位認定 >

【学部生】

- 自由選択「短期留学」として2単位を認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(42ページ)を参照してください。

【短期大学生】

- 専門コア「課題実践 (海外研修・2単位)」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(177ページ)を参照してください。

夏期英語研修 (短期留学)

(短期大学生対象)

オーストラリアのグリフィス大学で夏期休暇を利用して、5週間の英語研修を行います。面接などにより学生を選抜し、選抜された学生には、本学から奨学金を支給します。

POINT

- ★研修中はホームステイで生活体験
- ★研修中の成果は、本学の卒業に必要な単位として認定
- ★本学から奨学金を支給

< 研修期間 (予定) >

8月～9月 [5週間]

< 単位認定 >

- 専門コア「課題実践 (海外研修・2単位)」および「重点履修科目 (2単位)」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(177ページ)を参照してください。

海外での語学研修に伴う単位認定 (短期留学) (学部生対象)

海外の語学教育施設で語学研修を行い、一定の成果をあげ、本学が教育上有益と認めた場合、活動時間や内容に応じて本学の卒業要件として単位の認定を行います。認定をうけるには、教育施設の発行する証明書と研修期間・総学習時間数・内容が分かる証明書等が必要です。また、単位認定の申請できる期間が、活動を行った時期によって異なりますので注意してください。

4年次生が卒業する年度の2月・3月に活動を行った場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。また、1～3年次生が2月・3月に活動を行った場合の単位認定は翌年度になりますので、活動を行った年度の進級基準における「卒業要件の合計単位数」には含めないようにしてください。

対 象	1～4年次生	
単位認定	本人の申請に基づき、2単位を上限に自由選択の「短期留学」として認定します。他の短期留学で修得した単位とあわせて4単位を上限として卒業要件の単位に算入します。 なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(42ページ)を参照してください。	
単位認定の申請	提出書類	①単位認定願 ②教育施設が発行した証明書 ③研修時間が明記されている書類 (証明書に記載のない場合) ④研修 (学習) 内容がわかる書類
	申請時期	本学が指定した期間 ※研修した年度 (2月・3月は翌年度) に申請してください。
	提出場所	教務部

※講義の授業時間 15 時間をもって 1 単位とします。

※研修は授業に支障をきたさないように、授業期間外に行うようにしてください。

※休学期間中の活動については、単位の認定を受けることができません。

※本学が実施する正規プログラムは申請の対象外となります。

海外日本語教壇実習プログラム

(外国語学部生対象)

本学で日本語教師を目指している学生を、海外の日本語教育機関に派遣し、諸外国における日本語教育の現場を経験することにより、本学の日本語教師志願者および海外での日本語学習者への支援ならびに日本語および日本文化等を普及することを目的としています。

POINT

- ★休暇中に海外の日本語教育機関で日本語教育の現場を経験
- ★事前・事後学習でトータルサポート
- ★実習中の成果は、実習時間に応じて、本学の卒業に必要な単位として認定！

< 実施時期(予定) >

夏期・春期休暇中 (2～3週間)

< 実習先(予定) >

オーストラリア、台湾、韓国、マレーシア、タイ等

< 単位認定 >

【日本語学科】

学習・実習時間数に応じて4単位を上限に専門特別演習科目「国内外日本語教壇実習」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、「国内および海外インターンシップ」「エアラインスタディプログラム (JAL)」で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(42ページ)を参照してください。

【日本語学科以外】

日本語教員養成プログラム(コース2)登録者のみ、学習・実習時間数に応じて4単位を上限に自由選択「国内外日本語教壇実習」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、「国内および海外インターンシップ」「エアラインスタディプログラム (JAL)」で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(42ページ)を参照してください。

長期留学

各プログラムの詳細および説明会の日程については本学ホームページで確認してください。

交換留学プログラム [派遣留学A]

(学部・短期大学生対象)

本学が協定を結んでいる海外の大学へ1学期間または2学期間留学ができる制度です。奨学金などのサポート制度を最大限に生かした留学で、学部生は4年間、短期大学生は2年間で卒業することが可能です。

なお、留学期間中の本学への学費は全額納入することになります。

■ 学部

面接などにより選抜した学生を1学期間または2学期間、海外の協定大学に派遣する制度です。留学先大学の授業料が免除されるほか、本学から奨学金を支給します。

■ 短期大学

面接などにより選抜した若干名の学生を1学期間、カナダのダグラスカレッジに派遣する制度です。ダグラスカレッジの授業料が免除されるほか、本学から奨学金を支給します。

POINT

- ★単位認定の制度有
- ★一定の条件を満たせば、専攻する言語圏以外の国・地域の協定大学にも留学可能
- ★本学から奨学金として、最高80万円を支給
- ★留学先大学の授業料は免除

※単位認定については211～214ページを参照してください。

セメスター・アブロード・プログラム [派遣留学B:英語圏] (外国語学部生対象)

本学が協定を結んでいる海外の大学の英語コースへ1学期間留学ができる制度です。出願書類およびTOEFL iBTテスト、IELTSまたはIELTS for UKVIのスコアに加え、TOEICのスコアにより選抜します。

なお、留学期間中の本学への学費および留学先大学の授業料は全額納入することになります。本学から25万円の奨学金を支給します。

POINT

- ★1学期間、協定大学の英語コースへ留学
- ★単位認定の制度有
- ★留学期間を含む4年間で卒業が可能
- ★本学から奨学金として、25万円を支給
- ★留学中は学生寮やホームステイで生活体験

※単位認定については211～214ページを参照してください。

ブリッジ・プログラム [派遣留学C:英語圏] (外国語学部生対象)

本学が協定を結んでいる海外の大学の英語コース1学期間+学部1学期間の合計2学期間留学ができる制度です。出願書類および TOEFL iBT テスト、IELTS または IELTS for UKVI のスコアに加え、TOEIC のスコアにより選抜します。

なお、留学期間中の本学への学費および留学先大学の授業料は全額納入することになります。本学から50万円の奨学金を支給します。

POINT

- ★英語コース1学期間+学部1学期間の合計2学期間、協定大学へ留学
- ★単位認定の制度有
- ★留学期間を含む4年間で卒業が可能
- ★本学から奨学金として、50万円を支給
- ★留学中は学生寮やホームステイで生活体験

※単位認定については211～214ページを参照してください。

認定留学

(学部・短期大学生対象)

自分の興味や目的に合った留学先大学を決め、本学の許可を得て私費で留学する制度です。ただし、留学に伴う経費や日程などは、自分で綿密に計画を立てなければなりません。留学期間は1学期間または2学期間です。

また、学内申請にあたり、各学部・学科が独自の条件を定めている場合がありますので、学部生はアカデミック・アドバイザーおよび学科長と、短期大学生は修学アドバイザーおよびキャリア英語科長と十分に相談してください。

なお、留学期間中の本学への学費は全額納入することになります。

POINT

- ★留学にかかる経費はすべて自己負担。資金計画をしっかりと立てること
- ★時間的余裕をもって、申請に必要な学内手続きを進めること
- ★短期大学生の留学先は、本学協定大学のダグラスカレッジ(カナダ)とし、留学期間は1学期間のみ
- ★単位認定の制度有

※単位認定については211～214ページを参照してください。

派遣留学・認定留学に伴う単位認定

< 単位認定の方法 >

単位認定は、原則として、留学先大学で履修したすべての授業時間数を、次の計算式によって本学の単位に換算し、授業科目の区分毎に本学の卒業に必要な単位として認定します。

$$\text{【単位換算の計算式】} \quad \frac{\text{留学先大学で履修したすべての授業時間数 (分)}}{900 \text{ 分 (本学で 1 単位を修得するために必要な基準時間数)}} = \text{本学での単位数}$$

※認定方式は、留学先大学で履修した授業内容に関係なく認定する「一括認定」と、本学の授業科目に類似した授業科目を留学先大学で履修した場合に振り替えて認定する「振替認定」で行います。

< 認定単位数等 >

留学期間	単位認定の上限		申請から認定まで
	学部	短期大学	
1 学期間	16 単位	16 単位	本人の申請に基づき所属学科会議を経て教授会で審議のうえ、その可否を決定します。したがって、留学すれば必ず単位が認定されるというものではありません。 留学を計画した時点でアカデミック・アドバイザー（学部）・修学アドバイザー（短期大学）および授業科目担当者（短期大学はキャリア英語科長）・国際部・教務部へ相談し、指導を受け、帰国後の単位認定申請に備えてください。
2 学期間	32 単位	—	

※単位認定全体の上限等については、「本学以外での学修成果に対する単位認定」(学部 42 ページ、短期大学 177 ページ)を参照してください。

※留学先で履修した実技に関する科目は、単位認定の対象になりませんので注意してください。

外国語学部

1 専攻語圏の大学へ留学した場合の単位認定の方法

留学先で修得した単位の認定方法は、原則として包括的な一括認定方式とします。ただし、外国語強化科目、第2・第3外国語科目および日本語学科の専門特別演習科目は科目対科目の振替認定とし、総合科目および基礎ゼミナール、卒業選択、資格課程に関する科目の認定は行いません。

なお、成績表等への表記は、専攻語科目・専門科目等の一部の授業科目区分を除き、一括認定の場合は原則として海外留学認定科目、振替認定の場合は本学の授業科目名となります。

【単位認定の対象になる授業科目と優先順位】

単位認定の対象になる授業科目は次表のとおりで、各学科の授業科目区分に応じて単位認定を行います。

単位認定の申請は、原則として次表の優先順位に基づいて本人が行ってください。進級基準にかかる単位が残っている場合は、その単位を優先してください。

なお、再履修科目は認定しない場合がありますので、注意してください。

ロシア語学科以外の学科

優先順位	授業科目区分	認定方法	認定結果の成績表(証明書)への表記方法	備考
①	専攻語科目・専門科目	一括認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
②	グローバル・スタディ科目群(エリア A) <学科指定必修・選択必修>	一括認定	授業科目名で表記 (選択必修は海外留学認定科目)	留学期間中に本学で履修可能な学科指定科目(必修・選択必修)で卒業要件単位数を上限として認定
③	専門特別演習科目(日本語学科のみ)	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
④	第2外国語科目	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
⑤	外国語強化科目	振替認定	海外留学認定科目(〇〇語)で表記	インターミディエイトの授業科目の単位で、卒業要件単位数を上限として認定(英語は、インターミディエイトの履修基準に達している場合に限る)
⑥	第3外国語科目	振替認定	授業科目名で表記	
⑦	グローバル・スタディ科目群(エリア B)	一括認定	海外留学認定科目で表記	上記②を含めて卒業要件単位数を上限として認定
⑧	キャリア・スタディ科目群	一括認定	海外留学認定科目で表記	選択するまたは選択したコースの100番台(既に100番台の授業科目を修得している場合は200番台)の授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
⑨	自由選択	一括認定	海外留学認定科目で表記	上記①～⑧の単位を含めて留学期間に応じた単位数を上限として認定

ロシア語学科

優先順位	授業科目区分	認定方法	認定結果の成績表(証明書)への表記方法	備考
①	専攻語科目	一括認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定 ※ただし、各科目の単位修得に必要なTORFL検定試験の該当レベルに合格している場合に限る。
②	グローバル・スタディ科目群(エリア A) <学科指定必修・選択必修>	一括認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な学科指定科目(必修・選択必修)で卒業要件単位数を上限として認定
③	第2外国語科目	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
④	外国語強化科目	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定 ※ただし、各科目の単位修得に必要なTORFL検定試験の該当レベルに合格している場合に限る。
⑤	第3外国語科目	振替認定	授業科目名で表記	
⑥	グローバル・スタディ科目群(エリア B)	一括認定	海外留学認定科目で表記	上記②を含めて卒業要件単位数を上限として認定
⑦	キャリア・スタディ科目群	一括認定	海外留学認定科目で表記	選択する、または選択したコースの100番台(既に100番台の授業科目を修得している場合は200番台)の授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
⑧	自由選択	一括認定	海外留学認定科目で表記	上記①～⑧を含めて留学期間に応じた単位数を上限として認定

2 専攻語圏以外の大学へ留学した場合の単位認定の方法

ロシア語学科以外の学科

各学科の専攻語科目・専門科目およびグローバル・スタディ科目群（エリア A）の学科指定科目の単位認定については、以下の①～③に従い、類似した科目を履修した場合に振り替えて認定します。それ以外の単位認定は専攻語圏への留学の認定方式を準用します。

- ①各学科の専攻語科目・専門科目の単位認定については、専攻語として認定可能な単位数が留学期間中に本学で履修可能な授業科目（再履修を除く）の合計単位数の半分よりも少ない場合は、半分（小数点以下は四捨五入）を上限とし、単位を認定します。認定する科目は留学後の履修を考慮して所属学科が決定します。
- ②グローバル・スタディ科目群（エリア A）の学科指定科目の単位認定については、類似した科目を履修した場合、必修科目は該当する授業科目名に、選択必修科目は「海外留学認定科目」に振り替えて認定します。
- ③4年次配当の専攻語科目については、該当する学期の授業科目の単位を認定します。

ロシア語学科

専攻語科目、外国語強化科目、グローバル・スタディ科目群（エリア A）の単位認定については、以下の認定方式に従います。その他の授業科目区分の単位認定は専攻語圏への留学の認定方式を準用します。

- ①ロシア語学科の専攻語科目として認定可能な単位数がない場合は、専攻語科目および外国語強化科目（ロシア語）の単位認定は行いません。
 - ②グローバル・スタディ科目群（エリア A）の学科指定科目の単位認定については、類似した科目を履修した場合、必修科目は該当する授業科目名に、選択必修科目は「海外留学認定科目」に振り替えて認定します。
- ※4年間で卒業は難しくなりますので、注意してください。

国際貢献学部

留学先で同分野または同系列の学部・学科で履修することを条件に、下表のとおり単位認定を行います。

優先順位	授業科目区分	認定方法	認定結果の成績表（証明書）への表記方法	備考
①	コア科目	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
②	コース科目（必修・選択）	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
③	コース共通科目（必修・選択）	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
④	英語演習科目	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
⑤	第2外国語科目	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
⑥	教養科目	一括認定	海外留学認定科目で表記	卒業要件単位数を上限として認定
⑦	自由選択	一括認定	海外留学認定科目で表記	卒業要件単位数を上限として認定

※「Community Engagement」「日本学インスティテュート科目」「日本語演習科目」「第3外国語科目」は認定しません。

短期大学

留学先で修得した単位の認定方法は、原則として包括的な一括認定方式とします。ただし、専門展開科目および教養科目（教養ユニット C）は科目対科目の振替認定とし、ベーシック科目および専門コア科目（リメディアル）の認定は行いません。

なお、成績表等への表記は、一括認定の場合は海外留学認定科目、振替認定の場合は本学の授業科目名となります。

【単位認定の対象となる授業科目と優先順位】

単位認定の対象となる科目は下表のとおりで、キャリア英語科の授業科目区分に応じて単位認定を行います。

単位認定の申請は、原則として下表の優先順位に基づいて本人が行ってください。

優先順位	授業科目区分	認定方法	認定結果の成績表（証明書）への表記方法	備考
①	専門コア科目（必修）	一括認定	授業科目名で表記する	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
②	専門コア科目（「課題実践」）	一括認定	課題実践（海外留学）で表記する	
③	専門展開科目	振替認定	授業科目名で表記する	
④	教養科目（教養ユニット C）	振替認定	授業科目名で表記する	
⑤	教養科目（教養ユニット A・B）	一括認定	海外留学認定科目で表記する	
⑥	重点履修科目	教養科目（教養ユニット A・B）の卒業要件単位数を超えて修得した単位数を算入する		

SAF（スタディ・アブロード・ファウンデーション）留学／休学留学（学部・短期大学生対象）

■ SAF（スタディ・アブロード・ファウンデーション）留学

本学がパートナーシップを締結している SAF をとおして、長期留学（学部留学・語学留学・インターンシップ）に参加することができます。

なお、SAF をとおして長期留学をする場合は、認定留学または休学留学のいずれかになります。認定留学として留学する場合の本学への申請条件等については本学ホームページを、また単位認定については 211～214 ページを参照してください。

< SAF 留学に関するお問い合わせ >

ウェブサイト：<http://japan.studyabroadfoundation.org/>

TEL：050-5490-2517

e-mail：safjapan@studyabroadfoundation.org

< SAF ウェブサイト >



■ 休学留学

本学で「留学」としての認定を得ずに外国の教育機関等で学修する場合は、「休学」の手続きをとる必要があります。休学期間は本学の在学期間に算入しませんので、学部生は 4 年間、短期大学生は 2 年間で卒業することができません。

海外インターンシップ

(学部・短期大学生対象)

海外インターンシップとは、海外進出している企業・団体で就業体験するプログラムです。多様な文化の中で働くために必要な意識と能力を知り、グローバルな職業観を養います。海外のビジネスの現場において求められる語学力の修得もめざします。

プログラムの詳細については募集説明会を開催します。説明会の日時は別途お知らせします。

< 対象学生 >

【学部生】1～4年次生

【短期大学生】1・2年次生

< 実施時期 >

夏期・春期休暇中の1～5週間程度の実習（事前・事後学習会あり）

< 費用 >

自己負担

< 報酬 >

無報酬

< 実習先（予定） >

カナダ、スペイン、フランス、ドイツ、イタリア、中国、メキシコ、アメリカ（グアム）

POINT

カナダ研修

- ・英語で調査し日本語でレポートを書くという、海外で働くビジネス基礎スキルを学べる
- ・多文化共生の歴史や文化を肌で感じることができる
- ・幅広い語学レベルの方の受け入れが可能

ヨーロッパ研修

- ・英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語が活かせる
- ・世界有数の観光都市のツーリズム文化に触れることができる
- ・ヨーロッパ特有の洗練さと伝統の異文化体験ができる

中国研修

- ・徹底したビジネス文書の作成が学べる
- ・実用的な中国語の運用方法が学べる
- ・出張同行などをとおして日中経済に関わる多くのビジネスパーソンと出会う

メキシコ研修

- ・メキシコの教育現場を体感できる
- ・国際文化交流を実施する（日本で唯一の）専門機関での業務体験ができる
- ・日本語や日本の文化を伝える業務に携わり、自国の文化や言語について学び視野を広げることができる

アメリカ（グアム）研修

- ・ホテル業と旅行業の両方を一度に学べる
- ・英語を使った実践的な接客スキルが身に付く
- ・実務研修だけでなく、“学生オリジナル旅行の企画”もできる

学部4年次生および短期大学2年次生が、卒業する年度の春期休暇中に実習した場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。また、外国語学部1～3年次生は研修を行った年度の進級基準における「卒業要件の合計単位数」に含めないようにしてください。

単位認定	<p>【学部生】 本人の申請に基づき、学習・実習時間数に応じて、4単位を上限に自由選択の「海外インターンシップ」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、「国内インターンシップ」「海外日本語教壇実習プログラム」「エアラインスタディプログラム(JAL)」で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。</p> <p>【短期大学生】 本人の申請に基づき、学習・実習時間数に応じて、専門コア「課題実践(海外研修・2単位)」および「重点履修科目(2単位)」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、「国内インターンシップ」「ペイドインターンシップ」「エアラインスタディプログラム(JAL)」で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。</p> <p>※インターンシップで単位認定を行う場合、受け入れ機関と本学の協定が必要となりますので、事前にキャリアセンターへ相談してください。 ※単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(学部42ページ、短期大学177ページ)を参照してください。</p>						
	単位認定の申請	<table border="1"> <tr> <td>提出書類</td> <td>単位認定願、実習日誌、事後学習レポート</td> </tr> <tr> <td>提出時期</td> <td>10月上旬または3月下旬</td> </tr> <tr> <td>提出場所</td> <td>キャリアセンター</td> </tr> </table>	提出書類	単位認定願、実習日誌、事後学習レポート	提出時期	10月上旬または3月下旬	提出場所
提出書類	単位認定願、実習日誌、事後学習レポート						
提出時期	10月上旬または3月下旬						
提出場所	キャリアセンター						

海外フィールドワーク

(学部生対象)

海外での実習・研修・研究等のフィールドワークは、本学が教育上有益と認めた場合、活動時間や内容に応じて本学の卒業要件として単位の認定を行います。認定をうけるには、機関元の発行する証明書と活動時間・内容が分かる証明書等が必要です。また、単位認定の申請できる期間が、活動を行った時期によって異なりますので注意してください。

4年次生が卒業する年度の春期休暇中に活動を行った場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。また、1～3年次生は活動を行った年度の進級基準における「卒業要件の合計単位数」には含めないようにしてください。

対 象	1～4年次生	
単位認定	本人の申請に基づき、活動時間数に応じて、4単位を上限に自由選択の「海外フィールドワーク」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、「海外フィールドワーク（ベトナム・カンボジア）」「エアラインスタディプログラム（プリズベン）」「災害ボランティア活動」「学校教育支援活動」「日本語教育支援活動」で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。 なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（42ページ）を参照してください。	
単位認定の申請	提出書類	①単位認定願 ②機関元が発行した証明書 ③活動時間が明記されている書類（証明書に記載のない場合） ④活動内容がわかる書類
	申請時期	本学が指定した期間 ※活動した年度（2月・3月は翌年度）に申請してください。
	提出場所	キャリアセンター

※研修等は授業に支障がない授業期間外に行うようにしてください。

※休学期間中の活動については、単位の認定を受けることができません。

■ 海外フィールドワーク（ベトナム・カンボジア）

< 対象学年 > 1～4年次生

< 実施期間(予定) > 【ベトナム】夏期休暇中1～2週間程度の実習（事前・事後学習あり）

【カンボジア】春期・夏期休暇中1～2週間程度の実習（事前・事後学習あり）

< 費用 > 自己負担

< 報酬 > 無報酬

< 実習先(予定) > ベトナム・カンボジア

※単位認定申請時の提出書類、提出場所等は募集説明会で配布する資料で確認してください。

【ベトナム】 異文化においてゼロからチームで課題に挑戦するバイタリティ溢れる人材育成を目指します。ベトナムという英語が公用語でない言葉も文化も異なる環境で与えられた課題（仕事）に対し、限られた時間内にチームで取り組み最善の結果を導き出す課題解決型プログラムです。

【カンボジア】 カンボジアにおけるプロサッカーチームの実事業を経験し、途上国ビジネスを学ぶ。営業、広報の役割を担う活動を通じクラブ経営ビジネスの成功体験と課題を明確にする経験を積んでいくプログラムです。

POINT

こんな人にオススメ

- 1 マーケティングやビジネス企画に興味のある人
- 2 言葉も文化も異なる環境で自分が何ができるのか挑戦してみたい人
- 3 これまでの自分の殻を破ってみたい人

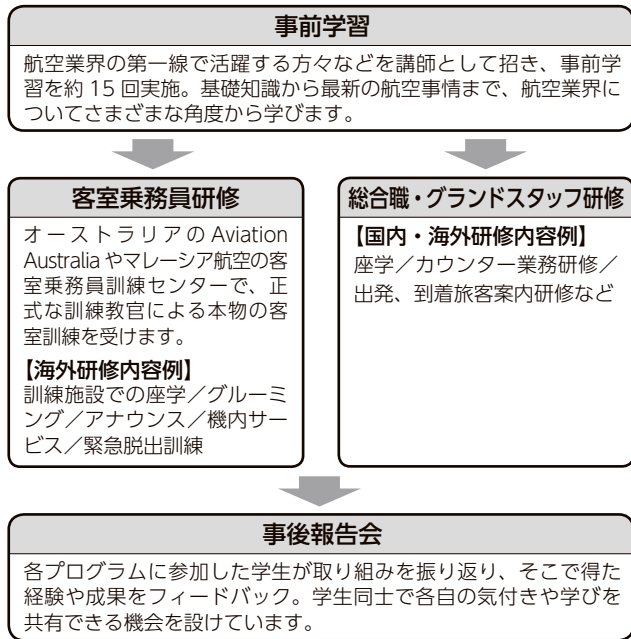
エアラインスタディプログラム

(学部・短期大学生対象)

航空会社等との連携により、実際に訓練を行う空港・研修施設で、本格的な講習や訓練が受けられます。また、外国語学部のキャリア・スタディ科目群には「航空ビジネス概論」や「航空ビジネス演習」など、サービス・ホスピタリティ産業への就職をめざす学生に向けた授業科目を数多く開講しています。

このプログラムの詳細については募集説明会でお知らせします。説明会の日時は別途お知らせします。

<プログラムの流れ>



過去の実績

客室乗務員研修 研修先

- ・オーストラリア・ブリスベン Aviation Australia
- ・マレーシア航空 (マレーシア航空客室乗務員訓練センター)
- ・アジアナ航空 (アジアナ航空トレーニングセンター)

総合職・グランドスタッフ研修 研修先

- ・JAL 香港 (香港国際空港)
- ・JAL 大連 (大連国際空港)
- ・JAL 台北 (台湾桃園国際空港・台北松山国際空港)
- ・JAL パリ (シャルル・ド・ゴール国際空港)
- ・JAL フランクフルト (フランクフルト国際空港)
- ・JAL ヘルシンキ (ヘルシンキ国際空港)
- ・JAL シドニー (シドニー国際空港) など

学部4年次生および短期大学2年次生は、卒業する年度の春期休暇中のプログラムに参加した場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。また、学部1～3年次生は研修を行った年度の進級基準における「卒業要件の合計単位数」に含めないようにしてください。

対 象	学部1～4年次生、短期大学1・2年次生
単位認定	<p>客室乗務員研修</p> <p>【学部生】 ブリスベンでの研修のみ学習・研修時間数に応じて、4単位を上限に自由選択の「海外フィールドワーク」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、「海外フィールドワーク」「災害ボランティア活動」「学校教育支援活動」「日本語教育支援活動」で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。</p> <p>【短期大学生】 ブリスベンでの研修のみ学習・研修時間数に応じて、専門コア「課題実践(海外研修・2単位)」および「重点履修科目(2単位)」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、「学校教育支援活動」「日本語教育支援活動」で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。</p> <p>総合職・グランドスタッフ研修</p> <p>【学部生】 学習・研修時間数に応じて、4単位を上限に自由選択の「海外インターンシップ」として認定しますが卒業要件に算入する単位は、「国内外インターンシップ」「国内外日本語教壇実習」で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。</p> <p>【短期大学生】 学習・研修時間数に応じて、専門コア「課題実践(インターンシップ・2単位)」および「重点履修科目(2単位)」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、「国内インターンシップ」「ペイドインターンシップ」「海外インターンシップ」で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。</p>

※単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(学部42ページ、短期大学177ページ)を参照してください。

リーダーシップ・チャレンジ

リーダーシップ・チャレンジ

(学部・短期大学生対象)

京都外大リーダーズ・スクール (GLS) が、西日本学生リーダーズ・スクール (UNGL) と連携して実施する研修で、夏期休暇と春期休暇を利用しサイパン等で約 1 週間の研修を行います。価値観、立場、文化背景などが異なる組織での共同活動をととして実践的なリーダーシップ (スキル・知識・態度) を身に付けます。

なお、このプログラムは単位認定を行いません。

■ APSSA 学生カンファレンス (Advance Programs)

< 概要 >

アジア太平洋地区の学生支援に携わる大学教職員のための国際学会で同時開催される「学生カンファレンス」への参加を通じて、実践的なリーダーシップの知識・スキル・態度を学びます。本カンファレンスは、2年に1度開催され、アジア各国で開催されます。具体的な内容として、アジア太平洋地区各国の大学生が集まり、国際的な課題を解決するために、“大学時代に何を学べばよいか、何をすればよいか”などの様々なテーマに討論します。各国の大学生がチームを作り、それぞれの国の現状や課題、未来への展望を議論する中で、自分自身のリーダーシップが試される非常にチャレンジングな体験になることは間違いありません。

■ リーダーシップ・チャレンジ in 台湾 (Advance Programs)

< 概要 >

高雄第一科技大学において、台湾やタイからの複数の大学からくる大学生や留学生とともに、リーダーシップ・トレーニングを行います。多様な価値観を持つ他国の学生とのグループワークやディスカッション、学外でのフィールドワークを通じて、実践的なリーダーシップの知識・スキル・態度を学びます。他者との協力場面における自らの振る舞いや言動を、自分自身、共に学ぶ仲間、そして教職員とともに深く振り返ることによって、自分自身の強みや課題を強く認識し、次のステップにつなげることができます。

■ リーダーシップ・チャレンジ in サイパン (Intermediate Programs)

< 概要 >

北マリアナ諸島の中心的な島であるサイパン島内の 12 の小中学校において、1 週間先生の体験をします。自らが積極的にコミュニケーションを取ることによって、担任の先生との協力体制を築き、自分が受け持つ小中学生に対して日本文化や道徳にまつわる授業を行います。また、自分の得意分野 (スポーツ、音楽等々) を活かした異文化交流、社会貢献活動などを行います。その中で自らの振る舞いや言動を、自分自身、共に学ぶ仲間、そして教職員とともに深く振り返ることによって、自分自身の強みや課題を強く認識し、次のステップにつなげることができます。

留学サポート

留学サポート

■ 国際部 (4号館2階)

はじめての留学でも疑問や不安を解消でき、安心して留学生生活をスタートできるよう、きめ細やかなサポート体制を整えています。是非、活用してください。

- 留学相談
- 派遣留学手続きのサポート
- 留学説明会・オリエンテーション実施
- 留学フェアの実施

また、国際部では「国際部 WEB 掲示板」や Kyoto Gaidai UNIPA、国際部 SNS 等を通して、留学や国際交流に関する様々な情報を発信しています。

<国際部 WEB 掲示板>

<https://sites.google.com/kufs.ac.jp/kokusaibuinfo>



<国際部 Twitter>



■ 留学情報室 (4号館2階)

留学に関する資料や過去に実施した交換留学プログラム〔派遣留学 A〕選考試験の問題などを自由に閲覧できます。なお、留学情報室の利用については、以下の点に留意してください。

- パソコン・プリンターは留学に関する利用に限定します。
- 喫煙および飲食物の持ち込み、携帯電話の使用を禁止しています。

国際部・留学情報室 開室時間

月～金曜日：9:00～18:30 (祝日を除く)

土曜日：9:00～17:00 (祝日を除く)

※休暇期間中の開室時間は上記と異なりますので、ホームページなどで確認してください。



■ 国際部 Student Ambassador (S.A.)

国際部隣の留学情報室に「国際部 Student Ambassador (S.A.)」が在室しています！

S.A. とは国際部付の派遣留学経験者を中心とした学生スタッフです。留学を希望している人は、勉強方法や留学先での生活の様子など、聞きたいことがあれば気軽に相談に来てください。また「TOEFL iBT テスト/IELTS などの勉強会」、「留学体験の発表会」、「交換留学生と外大生との交流イベント」なども実施しています。

※各イベントの詳細については決まり次第、Kyoto Gaidai UNIPA、国際部 SNS 等でお知らせします。



■ SAF (スタディ・アブロード・ファウンデーション)日本事務局 関西オフィス

国際部・留学情報室(4号館2階)に、本学が提携を結んでいる「米国非営利教育財団 SAF スタディ・アブロード・ファウンデーション日本事務局」の関西オフィスがあります。SAF 日本事務局 関西オフィスには、JAOS 認定留学カウンセラーの資格を持つ留学アドバイザーが在室し、留学についての質問に何でもお答えします。留学制度、留学プログラムや留学先大学選び、語学力アップの勉強法など、気軽に何でも相談してください。なお、アドバイザー在室時のスケジュールおよび個別相談の予約方法はホームページで確認してください。

■ 留学月間報告書閲覧システム

留学経験者や現在留学中の学生の様子がわかる「月間報告書」を閲覧することができます。最新の留学情報の収集に大いに役立ててください。

■ 留学フェア

本学では、「異文化を体験したい」「実践的に外国語を学びたい」など、海外へ夢を抱く学生のために留学フェアを開催しています。留学制度や留学までの流れ、費用、受け入れ先の特徴など、留学の基礎知識を丁寧に説明し、目的や予算にフィットした留学先選びをサポートしています。

■ 各種プログラムの担当部署

国際部

留学制度全般(国内交換留学を除く)、海外セミナー、UK English Programme、USA English Program、ブルゴーニュ大学フランス語研修、ノヴォシビルスク国立大学ロシア語研修、夏期英語研修、海外日本語教壇実習プログラム、留学生アシスタント

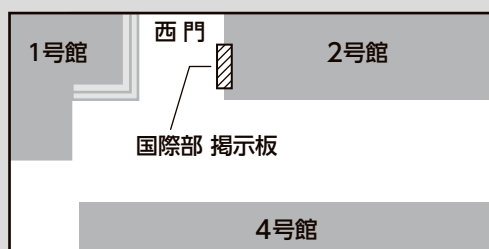
キャリアセンター

海外インターンシップ、海外フィールドワーク、エアラインスタディプログラム

京都外大リーダーズ・スクール

リーダーシップ・チャレンジ

< 国際部掲示板 >



< 掲示内容 >

- 国際部からのお知らせ
- 留学説明会・イベント案内
- S.A. 在室時間およびイベント案内

海外渡航をする場合の留意事項

海外では皆さんの想像以上に、治安の状況や流行している病気など、日本とは大きく異なります。ここでは、海外渡航をする場合の大事な情報を記載していますので、内容をしっかりと確認し、必要な手続きを確実に取ってください。

1. 渡航前

(1) 渡航先周辺の情報収集

渡航先周辺の社会・治安情勢、衛生状況や病気に関する情報、生活習慣・風俗、犯罪傾向・手口など、最新の情報を以下のホームページ等で確認しておきましょう。

< 外務省 >

- 海外安全ホームページ <https://www.anzen.mofa.go.jp/>
- 世界の医療事情 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html>
- 領事サービスセンター（海外安全相談班） https://www.anzen.mofa.go.jp/about_center/

< 厚生労働省 >

- 感染症・予防接種情報
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/

(2) パスポートとビザ

渡航先が決まったら、渡航手続きを開始してください。旅券（パスポート）は原則として、住民票のある都道府県の旅券事務所で申請します。ただし、京都府以外に住民登録をしていますが、通学のために京都府内に住んでいる人は、京都府でパスポートを申請することができます。詳しくは、京都府旅券事務所のホームページ等で確認してください。

同時に、渡航先の国で査証（ビザ）が必要かどうかを各国の大使館や領事館のホームページで確認し、必要な場合は速やかに査証申請手続きを始めてください。手続方法、必要書類、取得までにかかる日数、手数料等の最新情報もホームページで早めに確認しましょう。

< 外務省 >

- 各都道府県旅券事務所 https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/pass_6.html
- 駐日外国公館 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/link/emblast/>

(3) 航空券

出発日が決まったら、航空券を予約してください。航空券の種類によっては格安なものもありますが、「払い戻しできない」、「期日の変更ができない」、「途中で降機できない」等いくつか制限があるので、購入の際は十分注意してください。値段の安さだけにとらわれず、信頼のおける航空会社を選ぶよう情報収集しておきましょう。

(4) 海外旅行傷害保険

外国では日本で加入している健康保険等は使用できません。怪我や病気で病院にかかった際の治療費は、日本では想像もつかないくらいの高額になることがあるため、保障内容をしっかりと確認の上、出国から帰国までをカバーする海外旅行傷害保険に必ず加入しておいてください。

(5) 健康状態の確認

渡航前に健康診断や予防接種を受ける等、自分の健康状態や免疫抗体を把握しておいてください。病気予防や感染症の情報に関しては以下のホームページ等で確認してください。

< 厚生労働省検疫所 >

- FORTH (For Travelers' Health) <https://www.forth.go.jp/>

また、持病のある人は、かかりつけの医療機関で、外国語での診断書や処方箋を作成してもらい、現地に持参してください。万一の場合に備え、持病について外国語で説明ができるよう準備しておきましょう。

(6) パスポートやクレジットカード等のコピー

万一、外国でパスポートやクレジットカード等を紛失した場合でも、あらかじめコピーを取っておくと届け出る時に便利です。また、パスポート等を紛失した場合の届出先の一覧を作成しておく、緊急の際に迅速に対処できます。(例：大使館、領事館、現地警察、クレジットカード会社、航空会社、保険会社等)

(7) 渡航前の学内手続

本学の留学制度以外で、休暇中や休学中に海外渡航する人は、「海外渡航届」を学生部へ提出してください。

2. 渡航期間中

(1) 安着連絡

無事現地に到着したことを家族へ知らせましょう。また、万一の場合に備え、日本の家族とは定期的に連絡を取り合うようにしましょう。

(2) 「在留届」の提出および「たびレジ」への登録

外国に住所または居所を定めて3ヵ月以上滞在する人は、その地域を管轄する日本大使館または総領事館に「在留届」を提出することが義務付けられています。また滞在期間が3ヵ月未満の人は、外務省海外旅行登録「たびレジ」へ登録してください。渡航先で事件・事故など思わぬ災害に巻き込まれた場合、日本大使館や総領事館は「在留届」や「たびレジ」の登録をもとに援護活動を行います。

< 外務省 >

- 海外へ渡航される皆様へ <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

(3) 安全情報の確認

現地での治安情勢や感染症などについては、状況が急に变化する可能性があるため、必ず以下のホームページで最新の情報を入手してください。また、日ごろから緊急連絡先(保険会社サポートデスク等)は身につけておくようにしましょう。

< 外務省 >

- 海外安全ホームページ <https://www.anzen.mofa.go.jp/>
- 現地の日本大使館または総領事館等のホームページ <https://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/zaigai/list/>

(4) 現地での行動

渡航期間中は渡航先の法令を遵守し、本学の学生としての自覚と責任において行動してください。また、生活上のマナーや慣習等が日本とは異なるということを理解し、周辺の環境や治安情報に細心の注意を払い、あらゆる場面において安全第一を心がけてください。

- 危険地域に立ち入らない
- 薬物使用に巻き込まれない
- 夜は決して1人で出歩かない
- 交通ルールを理解する
- 大金を持ち歩かない
- 車やバイクの運転はしない
- 安易に見知らぬ人を信用しない

留学生との学内交流プログラム

■ 留学生アシスタント

来日する長期・短期留学生がスムーズに学生生活を送れるようにサポートすることで、留学生と密な交流ができ、新しい価値観や異文化を吸収する好機会が得られる制度です。募集説明会の日程は、本学ホームページの行事予定表(学年暦)で確認してください。

※募集説明会の詳細については、決まり次第、Kyoto Gaidai UNIPA・国際部 SNS 等でお知らせします。

< 国際部 Twitter > < 国際部 Facebook >

